

これまでの歴史

これまで5度にわたり評価報告書を作成

第1次報告書
(1990年)



人為起源の温室効果ガスは気候変化を生じさせる恐れがある。

第5次報告書
(2013~14年)



20世紀半ば以降の温暖化の主な要因は、人間活動の可能性が極めて高い。(95%以上)

1.5°C特別報告書の採択

第48回総会 (10月1日-5日韓国・仁川)

◆ 内容

1.5°Cと2°Cの地球温暖化の違いを示す

- 1.5°Cと整合する緩和経路
- 1.5°Cの上昇で予測される影響・リスクの評価 他

IPCC第49回総会の京都開催

◆ 開催地及び開催時期

- 京都市(国立京都国際会館(下記執筆者会合及び総会)、グランドプリンスホテル京都(記者会見))
- 執筆者会合(5月6日-7日)
- IPCC第49回総会(5月8日-12日)
- 記者会見(2019年5月13日)

◆ 「温室効果ガス排出量目録(インベントリ)の算定方法の改良に関する報告書」が受諾予定。

- 本報告書は、各国のインベントリ算定の基礎となるものであり、パリ協定の実施に不可欠
- 日本は1999年以降インベントリ算定に関わるタスクフォースの技術的支援ユニットをホスト。我が国のIPCCへの長年の貢献を国際的にアピール

IPCC第6次評価サイクル 成果物採択スケジュール(予定)

◆ 2018年10月
1.5°C特別報告書

◆ 2019年5月
方法論報告書

◆ 2019年8月
土地関係特別報告書

◆ 2019年9月
海洋雪氷圏特別報告書

◆ 2021年~2022年
第6次評価報告書

「いぶき」(GOSAT*)シリーズ

※GOSAT: Greenhouse gases Observing SATellite

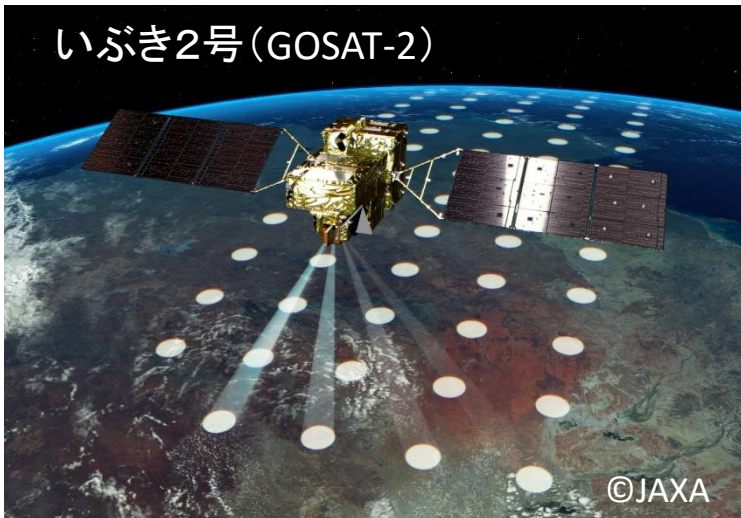
温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT)シリーズは、

- 環境省、宇宙航空研究開発機構(JAXA)及び国立環境研究所(NIES)で開発
- 初号機は打上げから9年半を経過した現在も継続運用中(設計寿命5年)
- 後継機「いぶき2号」は2018年10月29日(月)打上げ予定
- 「いぶき3号」は2018年度中の開発着手を目指し準備中

「いぶき」(GOSAT)シリーズの目的

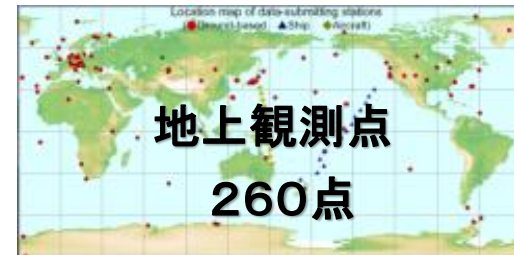
- 気候変動に関する科学の発展への貢献
- 気候変動政策への貢献(低炭素社会開発の推進)

いぶき2号(GOSAT-2)



「いぶき2号」主要諸元

- ・2018年10月29日打上げ予定
- ・軌道高度: 約613 km
- ・設計寿命: 5年
- ・観測対象:
 - 二酸化炭素(CO₂)
 - メタン(CH₄)
 - 一酸化炭素(CO) 等



「いぶき」による観測点

